平成 29 年度第 1 回南牧村総合教育会議 議事録

日時 平成 29 年 11 月 9 日(木曜日)午後 3 時 00 分開会

場所 南牧村役場 3 階大会議室北

議事日程

- 1 開 会
- 2 村長あいさつ
- 3 議事
 - ①南牧村小中学校建設検討委員会の状況について
 - ②全国学力・学習状況調査について
 - ③小海高校存続支援について
 - ④自由討議
- 4 閉 会

本日の会議に付した事件

議事日程に同じ

会議出席委員

(村長) 大村 公之助 (教育長) 井出 英夫 (教育長職務代理者) 渡邊 壽美
(教育委員) 井出 邦彦 高見澤 みち子 高見澤 ふみ子
(教育次長) 井出 浩美 (総務課長) 津金 初男 (総務課企画係) 有坂 恭祐

開会 午後 3 時 00 分

◎開 会

津金総務課長 それでは定刻よりも早い訳でございますけれども、平成 29 年度第 1 回総合教育会議をただ今から始めさせていただきますと思います。まず、村長あいさつをお願いします。

◎会長あいさつ

大村村長 今日は大変お忙しいところ、教育委員の皆さまには学校の諸問題など大変お世話になっておりまして、先般 10 月 21 日 22 日には小学校・中学校の子どもたちを交えた、星空・青空の環境省のイベントにも参加ご協力いただき、皆さんにも応援していただきまして無事終わることができました。また、日頃の学校につきましても、ご尽力いただきまして御礼を申し上げます。また、今日はですね、たまたま南牧の広報に南牧村小中学

校検討委員会便りというのが載っております、その内容につきましては逐次、教育長あるいは次長から聞いておりましたけれども、やはり私の持っている情報をみなさんにお伝えをして、ご検討いただき今後の検討委員会に役立てていただきたいと教育長の方にも申し入れをしまして、この会を持つことになりました。また今日は検討委員会の状況という議事の中にもありますので、この話を聞いてから具体的にどこに、場所についての状況を皆さんにお知らせしたいと思っております。今日は大変ご苦勞様です。

◎会長あいさつ

津金総務課長 はい、ありがとうございました。それでは早速、第3番の議事の方に入りますが、私の方で進行しますけれども座長は村長ということでございますので、まず第1番目の南牧村小中学校建設検討委員会の状況につきまして教育次長の方からご説明をいただきまして、意見交換・議事につきましては村長の方で進めていただければと思います。よろしくお願いいたします。それでは次長、お願いします。

井出教育次長 はい、よろしくお願いいたします。着座のまま、説明させていただきます。それでは、お手元にお配りしてございます資料をご覧くださいと思います。最初の1頁目が委員会での検討事項でございます。小中学校建設検討委員会を発足いたしまして、現在までにこの1番、2番、3番でありますがこの3つについての検討していただいております。1番は小中一貫教育制度の形、学校種はどういったもので、どういう教育を目指すのかというものであります。2点目は建設地の選定、どこで実施するのか。3点目はその開校時期についてですが、いつから実施するのかということでございます。予定ではここまでを中間報告として村長の方にご報告申し上げる予定でございます。4番から7番以降につきましては今後、建設地が決定後、細かい部会などを設置してさらに具体的な検討をしていくことになろうかと思っております。それでは2頁目をお願いします。今までの委員会内容と検討と今後ということでございますが5月23日第1回委員会が発足し、第一回の委員会を開催いたしました。その後、現在まで第6回まで開催しております。その中では小中一貫教育の形につきましては佐久穂町の小中を視察し、義務教育学校でいくのか小中一貫型にするのかというのはこれから検討していくということで、現在は具体的な建設地についての協議をしております。また、委員会の中で各学校、小学校、保育園などの保護者説明会をやってほしいという要望がございまして先月の27日には南小区ということで野辺山の基幹集落センターで行いました。また、北小区では明日午後1時半と6時半の2回、中央公民館で説明会を行うことになっております。次の会は第7回になりますが21日にはこの説明会での意見要望などをまとめ、そして前回までに2候補地に絞られておりますので、そちらについての議論あるいは中間報告案について検討できればと考えております。2候補地というのは現状の南小学校での建て替え、それからもう一つの候補地は中学校周辺、中央公民館のある湊地区を含めた中学校周辺、二つの候補地に絞られてきておるところでございます。3頁をお願いします。3頁は今後、建設地が決定後、専

門部会で検討することについては、こんなことを考えております。以上ですが、現在までの状況については以上です。

大村村長 ありがとうございます。それでは2番目もやっちゃおう。

津金総務課長 続けてやりますか。

井出教育長 続けてやりますか。はい。

大村村長 2本目やって。

井出教育長 2番目3番目続けて。

大村村長 4番目やって、最後自由討議に。

井出教育長 それでは続けて、全国学力学習調査ということで資料の1というのをご覧くださいと思います。子どもの学力の調査ということで国語・算数をやっております。Aというのは主に知識を測る学力調査、Bというのはそれを活用する調査ということでございます。子どもが少ないのでそのときの集団によって随分学力が、学年によって上がったたり下がったりするということなのでございます。これにつきましては取扱いを注意いただきたいと思います。それから2頁ですけれども、これは両小学校併せてですけれども得点の分布状況ということでございます。右上の方にいくと高得点の子どもたちが多いということでございます。点線が全国平均の正解率のラインで、これを概念としてこんな状況だと見ていただければと思います。その次の3頁は算数と同じようにチャートで出てきております。それから次の4頁、今度は子どもたちの諸々の学力も含めて諸々の生活習慣等のアンケートも併せて、円グラフで表しているものであります。学校別で、これは北小学校です。左側の円が今年度の分です。上が全国基準、下が長野県基準と比べたところでございます。見ていただきますと国語A・B、算数A・Bは点数で比較してございますがここで丸い点線の円よりも落ち込んでいるところが全国平均あるいは県平均よりも低い評価とかになっているということで学習意欲と生活習慣、ここが落ちていますね。赤い部分です。これ何かと言いますと生活習慣というのは毎朝ごはんを食べていますか、毎日同じ時刻に寝ていますか、同じ時刻に起きていますかという生活習慣をとったものです。ここら辺が北小の子どもたちは落ちているということ。それから学習習慣というのが家庭での学習に関して聞いているものでございます。宿題はやっていますか、予習はしていますか、復習はしていますかという項目があります。そこもちょっと落ち込んでいるなというところがございます。右側の点々の中の黒い三角印は昨年の子どもたちとの比較でございます。これは参考までにご覧いただければと思います。次の5頁が南牧南小学校の子どもたちでございます。下にいきまして黄色、自尊感情もかなり良い、平均以上となっております。この自尊感情というのはどういったものを調査しているのかというと、失敗を恐れない、自分の良いところを知っているか、最後までやりとおせるか、あるいは将来の目標をもっているか、こういったものを子どもたちに聞いたところがございます。これが南小の子どもたちの状況です。続いて6頁は中学校の国語の得点分。中学校の3年生は11人しかおりませんので、人数的にかなり少ないのですが、こういった

分布状況ということでございます。それから次の 7 頁が数学の分布状況です。かなりの人数、子どもたちが平均以上のチャートに分布して入っております。それから 8 頁が中学校の子どもたちへのアンケート結果でございます。ことらも見ていただくと左側の円グラフ、上下見ていただくと、やはり生活習慣については子どもたち平均以上ですが先ほど南小の子どもたちが高かった自尊感情というのが県平均あるいは全国基準よりも下回っているような状況でございます。学力調査については以上でございます。村長、また後でまとめて質疑等あれば受けたいと思います。

大村村長 はい。

井出教育長 続いて、資料の 2 のほうですけれども、これは郡の町村会から私ども教育長の部会に指示が出され、8月の町村会で小海町長が提案し、その後第二次高校再編に対応するため何らかの支援策をしたいということで教育長部会に協議して対応案をつくれという指示をいただいております。この関係で先般、南佐久郡の教育長と職務代理者が集まった中で協議してきておりますが 2 番にありますようにまず、小海の教育長が小海高校長と懇談して地域の連携していくことが大事だろうということでございます。29 年度、今年 89 名入学ということで定員割れをしており、強い危機感をもっています。今月の 27 日、午後からまた郡下の教育長と小海高校長との懇談が開催される予定でございまして、同様の会を重ねていきながら町村会の理事者のみなさんにご提案する対応案をつくっていきたいと思っております。今、教育長部会の方では 3 番にありますように『地域高校のために生徒を支援する会』というのがございまして、これを母体とするのが適切ではないかと考えております。それから 4 番目ですけれども、第 2 回目の県懇談会が 12 月 13 日から行われます。ここで第 2 期の再編にむけた見解が公表されるようでございます。第 2 通学区では蓼科、望月が多分該当校にあがってくるのではないかと考えております。10 月 8 日に来年の高校の入学者の状況、予定数調査が行われました。次の頁をご覧くださいと思います。これが第一回目の状況ということで問題の小海高校は、第二通学区のみ出しておりますが、小海高校が一番下、前期選抜で志願者数が 35、後期選抜で志願者数が 50、併せて 85 ということで、第一回ですけれども、ほぼ今年と同じくらいの応募状況ということでございます。小海高校の存続の支援につきましては以上でございます。私の方は以上でございます。

大村村長 はい、ありがとう。それでは今、1、2、3 の説明をしていただきまして、これから自由討議ということでございまして入りたいと思うのですけれども。私は特に南牧小中検討委員会の状況について説明をいただきまして、これについて皆さんに情報としてどうしても入れておかなければならないということで、これちょっと配って。

津金総務課長 当たりの障りのないところで。これ、公表になるそうなので。

大村村長 これ、ホームページに載っているから。

井出教育長 大丈夫ですか。

大村村長 大丈夫、全然。で、私がこれから話す内容というのは県の建設あるいは長国（注：

長野国道事務所の略)の方、長国というのは長野県にあります国交省の出先の機関で、こっち側のホームページでも載っておりますので、また確認していただければいいと思います。この話をぜひ皆さんに聞いていただいて、今後の学校候補地についてお役にたていただければと思います、後先にならない内にといいことでご案内する訳で。これは見ての通り、平成26年の時に対応方針案、方針案があつて前の政権の時ですけれども山梨の方から1キロ帯でこれが入ってきております。それで、ここに野辺山の駅と書いてありますけれども、そのところから今度は3キロ帯ということでこれが八千穂の29年の3月末までにはここまでは繋がりますよ、中部横断道が出来ますよという図面でございます。本来でしたら29年のもう3月にはここまで繋がっていなければいけなかったわけですけれども、まあ1年間延びたということで29年の3月までにはできるということでございます。それから今度、3キロ帯の中に佐久海ノ口駅というのがある訳ですけれども、この上にちょっとした丸い青い部分があります。この図面を使うかといいますとまだハッキリしないのでこの図面を使う訳であります。役場の丸印があります、駅もでございます。その上に丸く囲った、これ多分中学校。それで今、現在どのような話になっているかということ1キロ帯は決まっている訳ですから、これはもう頭から切り離していただいて、この3キロ帯の中で1キロ帯に今後ルートを決めていきますよという話がされている。長野国道事務所からそういった状況の話があるということでございます。そうなってきますと、今の中学校の部分のところ、多分下には来ないと思う。八ヶ岳寄りの方に行くと思う。それはですね、どういうことかということ1キロ帯にするまでに南佐久郡下の佐久穂まで入れて6町村の首長さん、あるいは建設課の職員、あるいは議会の皆さん、それと県議会議員などで構成した、みらい会議が中部横断道34キロ長坂インターまでということで既に4回くらい話し合いが行われ、現在は第1回目の調整会議に入っております。この中での話は141号線というのは茶色の線、それと並行しているのが小海線。この141号線の西側に1キロ帯をぜひお願いして、作ってほしいという要望をみらい会議では出しております。従いまして、この学校の付近では多分学校から八ヶ岳寄りの方に。ただ、どこ通るか分からないですよ、そこから北の方じゃなくて学校よりも上の方に1キロ帯が敷かれるのではないかなと、これは予想ですからあくまで。確定ではございません、多分そうなるだろうという話。そこに1キロ帯が入ります。まだ、1キロ帯ですから実際のルートについては、だいたい幅が50m間隔で実際は入る訳です。で、その1キロ帯が学校よりも要するに八ヶ岳寄り。と、もう一つは今の役場のこの上下ですね、どっちになるか分からないですけれども、北相木・南相木の要するにそれと海尻・森下・海ノ口・広瀬の皆さんの取り付け道路といいますかインターチェンジですね。そこに今の現況ね。志なの入りから見てくると、まあ湯沢とかじゃなくて中央公民館から学校にめがけた、一般常識で考えてですよ、このルートになる。その場合学校の候補地が今の南小のところ、そして今の中学校周辺という風になっているので、中学校周辺の場合には高速道路が交差する可能性がありますよと、そのところを頭の中に入れてほしい。それだけをみなさんの頭の中に

入れてほしいがために今日の会議を、あとは学校の検討委員会にお任せですから、私の色々な個人的な話はしませんし、するつもりもございません。ただし、中部横断自動車道についてはそういった情報というか可能性が……決まったわけじゃないですよ。可能性としてその辺がルートになるということを皆さん、頭の中にいれておいて今後対応していただきたいと。それともう一つはこの図面を見ても分かると思いますが野辺山の皆さんが今このルート帯、今度 141 号線の 1 キロ帯がありますよね。これから上の皆さんが要するにルートを別の、要するに 1 キロ帯の線から外して、もっと八ヶ岳の方に振ってほしいという要望がございます。これについて、議会に対してそういった要望がありましたけれども、議会としてはその要望を趣旨採択するという訳にはいきませんので、現在は前の議会・村が決めた通り、基本的にはこの 1 キロ・3 キロ帯で対応していくということで、趣旨採択していないのが現状です。ですからこの 1 キロ帯の部分については、まずほとんど変わらないという中で今後の話では変えてほしいというのがありますのでそれについて鋭意努力しているところでございます。ただ、中々ですね、この 3 キロ・1 キロ帯の中ですね、いろんなルートについてはまだ国も県もご意見は何いまずという言い方をしているのですけれども、ここら外れたルートについては、ほとんど国とすれば、まず無理ですよという話です。それはなぜかと言いますとこういったルートから外れますと、例えば山梨。このルートの中も色んな要望が出てきて収拾がつかない、じゃあこれがホントに決まっているのかということこれはほとんど決まっている状況です。いつ決めたかというと、これはいつ決めたとかではなくて、もうそういう段階は過ぎて平成 26 年の 7 月に正式な決定を受けた、これは図面です。今、私の言っているのはこの中で要望の一つとして取り付ける部分と 141 号線の柚添の、そこに川がありますが、そこからトンネルでぜひお願いしますという要望があります。こういう要望についてはトンネルの方がいい訳ですよ。野辺山の冬の気象条件あるいは 5 月の砂埃、ああいった状況を見ると安全に走行しなきゃいけない。市場坂でもそうですけど非常に死亡事故が多いということで、例えばトンネルにした場合、野辺山の原にインターは出来ませんよと、トンネルだと。通過ですから。なぜ野辺山にトンネルができないかということ、かなり登っていくのに勾配をつけなきゃならないと、ここ（海ノ口）から勾配をつけるのにどうしても 1 キロか 2 キロはどうしても必要だと 100m、200m 上がるのに階段じゃないから一気に上がる訳。そうするとトンネルは掘る、勾配は 2 キロもつけて、まあ 1 キロになるか 2 キロになるか分からないけど道を 2 つ作らなきゃいけない。原に登るルートとトンネルと。そして山梨に本線を繋げる。そうすると、それは国がやることでお願いしていけばいいけど、まず予算的に。トンネルを掘るだけでも今のルート沿いに作った場合でも 6 倍から 7 倍、トンネルだけでもお金がかかる。これはもう向こうの言い分ですからね、お金がかかろうがなんだろうが優良農地を潰すのは困るっていうのはそれまでなんだけど、そういった現状がある。トンネルを掘るということは野辺山にしたって市場にしたって板橋にしたって、あのあたりにインターは作らないというのが前提になりますよね、現実的に。野辺山に学校が

出来るにしても、中部横断道がないと下の皆さんは 141 号線を通る、当然野辺山行くのに。野辺山、板橋、平沢のみなさんは今度、海ノ口場合には市場坂を通らなきゃならない。ところが中部横断道ができると、まあそういったアクセスで市場坂の冬の危険なところは、冬だけじゃなくて通らなくてもいい。それがいつになるかっていうと分からない。それは 1 キロ帯になってもホントに実践ってなると時間がかかりますから、だいたいの目安とするとですね。対応方針案は 26 年の 7 月に出ています。従いまして 1 キロ帯になりますとまた今度 3 年後、環境アセスが 3 年間かかります。その 3 年後になって、初めて整備計画にあがるかあがらないか……。整備計画があがると、もう今度工事が始まりますから。そうするとそれなりの 5 年と……。それは仮説ですよ、あくまでも。20 年も 30 年もかからない。また、20 年 30 年かかれば、ちょっと必要ない訳で。あと、この八千穂から長坂までの間、34 キロ。その内の半分以上、だいたい 20 キロ、18~19 キロぐらいは南牧です。残り小海は 7・8 キロ、そんなにないか。6 キロぐらいだね。そうすると 20 キロで 8 キロ。山梨側が 8 キロから 10 キロぐらい。ということで皆さんの中にこれからの学校の建設検討委員会の中でそういったことを頭に入れて対応してほしいなということでございます。この間のこちらの 5 回 6 回のこれを見ますと皆さんの考え方が伝わってくる訳ですけども中学校の場合ですと山を取るとかそういう場合には例えば、中央公民館の下の辺になると思いますが、あそこに盛り土、取ってきた土を持ってくると思うのでまあ、そこは多分 10m かそれ以上高くなるという可能性はあると思うんですけどね。その時に下の皆さんが池の底じゃないですけど、周りにそういう威圧感が出ると思う。今後どういった話になるのか分からないけどそういったことを考えていかなければならないと私は考えている。そういったことを今後みなさんの頭の中に入れて学校の候補地の話をしていただきたい。これについては皆さんの方からご意見ありますか。

井出教育委員 素人っぽい素朴な質問ですが、この太いのが 3 キロ帯ですよ。もし仮にこの中部横断道ができるのとうちが学校建設に向けてやっていますが、どっちが早いかという学校の方が早い可能性が強いつてことですよ。今、候補地 2 箇所ですけれども、そのどっちかに作ったとしてもそれが将来の 1 キロ帯の分布には影響してくるということですよ。それを言いたいということですよ。

大村村長 うん。学校が騒音だとか環境だとかそういったことが、どういう風に影響するのか皆さんに考えてほしいな、そりゃね。今の 141 号線の西側で、そして学校のどの辺にいくのかっていうなぜそんな話をしたかという取り付け道路は 141 号線から入る訳です。ですから途方もなく上の方へ高速がいくようなことになると思う。要するにそれは広瀬・森下・海ノ口、あるいは両相木の皆さんが、そのインターに乗るのになるべく近ければ近い方がいい訳。そうすると学校周辺がいいのか。それとも上にいかなければいけないのかって話になると思う。だから学校がどこに作るのかにもよるけどインターがあまりも学校の側だと学校だって困る訳です。じゃあ、どっちが早いかどっちが遅いかによっては学校できた場合にはなるべく学校から離すことが必要だし、例えば横断道の 1 キ

口帯の中でどういう風にするかっていう場合には学校の場所もね、相互が考えていかないとうまくいかない。ただ、多分ね、交差はするよね。こっちの相木の道と上の道が。だから、どの辺まであげるかだと思ふ。上の道を。それは分からないから、我々にも。まあ、上でも下でも一番は市場坂を通らないで上に上がれる、下に下がるということがね。それと、もう一つはインターだけでも優良農地って野辺山の皆さんは言っているし、インターの場所を野辺山の最高地点のあたりに、例えば持って行った場合には南小だと遠くなる訳ですよ。要するに野辺山・板橋・平沢のみなさんは高速通らないでも通れるけど、こちらから行った場合にはどうしても野辺山のあそこでまた戻ってこなければいけない。まあ、理想とすれば板橋とか市場の辺がいいだろうし、また南牧村としても野辺山の最高地点のあたりに作ると今度観光で山梨の皆さんが八ヶ岳、鉢巻道路があるでしょ。あれからこんな風に道を開けられちゃうと観光客はみんなそっちに行っちゃうよね。そうすると村としても観光産業に影響すると。そんなことを村としても考えなきゃいけないといけないのかなど。山梨とすれば本当は県境にほしいと思います。ただし、山梨県の場合はこのルートを見るとインターが2箇所ありますよね、余談だけど小海もやっぱり1か所インター作るそうです。で、うちの場合じゃ両相木、それからこの地域の皆さんのことを考えて、政策インターというのを各市町村に国が一つは作るそうです。地域活性化インターを村に欲しい場合には村の予算でお金をいただきますよと、作ってやりましょうというやり方があって、それは村がお願いすればできる。ですからインターは村の中にもぜひ作ってほしいといえ、これは両相木の要望もある。両相木の要望は小海に抜けるにはちょっと遠い。やはり、南牧のこの地を利用したいという強い要望なので両相木の皆さんはこちらに出たいという要望です。

渡辺委員 今回、検討委員会でね、まあ会長ということでやってきたけれども、村長さんのお話を聞いていますと要するに高速道路の話ということで、今も言われたとおり時間が相当かかるということで、それから建設については出来れば早い方がいいという早く小中学校を作ってそれに載せたいということだけでも、今までの議会も入った中で検討委員会の中で聞いているとなんか物足りなさを感じているようなんですよね。

大村村長 うんうん。

渡辺委員 いつまでもただ喋っているだけで何の進展もないじゃないかと、あの会長何をしているのだろうという話もあるみたいです。教育の会議ですから端的に議会みたいにかうしますなんていう話にはならない。教育の会議というのは、だいたいがああいう会議だよ。色んな話を聞いてやっていくという、それでこういう会議があるということ。次の次あたりには条件を出してね、要するに土地の条件、それから土地取得の条件、そういったものを出してもらって具体的なある程度そういったものを出していかなければ話が進んでいかないと思っている。こういう国とのお話、高速との話ってなると中々時間がね、今ここで両方の話をしていくとなると大変だなという気がする。だから、ある程度期間と取得条件を箇条書きみたいにして出していかないといけないと思います。出してっ

てもらって、出来ることはハッキリしてもらって次の、あるいは次々回の会議にもっていくという。その辺はどうでしょうか。

大村村長 それは中部横断道がどうこうって訳じゃなくてあの、ずっと検討委員会で議論されている話で今私が言っているのは中部横断道もみらい会議が立ち上がって、そして1キロ帯という、もうすでに1キロ帯入っているんですけども、なぜこの1キロ帯が小海と南牧の間に入っていないかという、山梨はもう1キロ帯入っちゃっている。これは本来でしたら次のステップに行くわけです、山梨に。ところが小海と南牧の間に1キロ帯を山梨と同じように入れて、そして対応・環境評価にいきたいという話が出ているので皆さんにお知らせした。そして、今度ははっきりと1キロ帯が出ると、もっと具体的にどこに高速道路が通るって分かる訳ですから。ただ、この資料を見るとある程度結果を出したいということだからその前に参考までに皆さんに中部横断道の現況というのをお知らせしたい方がいいかなということでお集まりいただいた。本来でしたらもう中部横断道は命の道として必要なもので、これからの経済の発展あるいは少子化あるいは後期高齢、病院だとか色んな面でね、早く作ってもらいたいというのはこの地域一帯となって推進していく。確かに優良農地が色々あって、それでもやはり南牧の1キロより下には佐久穂・小諸・上田、40数万人の人間がいる訳ですよ。その皆さんがこの34キロだけがつながらないのは今後の経済発展、色々な面でぜひお願いしたい、願望ですけども。村もですから中部横断道の位置が決定すると学校の位置も決めやすいし、いいのですが、併行あるいはどちらかが先にやらなきゃいけない問題です。その話を頭の中に入れて進めていきたい。まあ、会長さんはそんなに、みなさんが会長はどうのこうのってのというのは聞いたことないから。

渡辺委員 その1キロ帯になるってというのはまだ相当先ですか。分からない？

大村村長 いや、それはね本当にこういう話が具体的になるってというのは年度なのか、佐久穂までは年明けの3月までには出来る訳ですからそれと併行して1キロ帯が出るのか。今までそういった話は全然なかったわけですから。これはもうホームページに載っております。ただし、来年出ますよとは言っていない。そういった会議が積み重なっていますよということ。だから国とすれば1キロ帯を早く決めたい。それともう一つは全国各地で中部横断道じゃなくて高速道路、高規格道路が引く手あまたにある訳ですよ。ここへ作ってくれ、ここにもお願いしますって話は全国山のようにある。だから、それをなんとかお願いしていく訳にはいろんな条件を出したり、反対とか問題がでると、それはほとんど手付かずの状況、他にいくらでも少ない予算で作っていかねばいけません。ホント、こんなことというルートを変えてくれっていう皆さんが「村長は何を言っているのだ」と国はそうだからね。それだけ要望が多いので、いろんな要望があるところは後回しになりますよ。できれば私とすれば、学校が上であろうが下であろうが中部横断道ができて、そして安心安全に子どもたちを通学させたい、これは皆さんも教育長はじめ教育委員の皆さんもそうだと思います。まあそういうことで一応頭に入れておいてほしいなど。どっ

ちにしたって上か下かしかない訳ですからね。で、今だって市場坂を飛んでいかなければ上にも下にも行けないですから。まあ、そういうことで今後、まあ私もできる限り努力を、中部横断道のルートを変える会の皆さんの意見も聞きながら積極的に取り組んでいきたい。そして、できれば通学についてはなるべく短時間で短距離で。小さい小学校1年のみなさんもどっちか行かなきゃいけないわけですから負担かけないってことになる、やはり高規格道路は早く作らないと子どもたちは大変な負担で通わなきゃいけなくなっちゃうと思う。まあ、そんなところで他に。いいでしょうか。

高見澤みち子委員 よろしいですか。今まで学校づくり委員会とかで中部横断道の話は出ていましたが高速道路の話はあまり考えずに検討してきた訳ですよ。走るルートによってそれが決まらないことには学校の位置も決まらないって思う人は多いのではないかと思います。それに今まで高速道路の話がないまま、進めてきてこの中部横断道の話の出し方が難しいと思うのですけど……。

大村村長 ですから皆さんの頭の中に入れておいてもらいたいのは今言ったルート帯がありますよ。ただし、中部横断道が早かろうと遅かろうと今後学校がどこであろうと、それについては村側が国にお願いしていけばいい訳ですから。例えば、現在の中学校の辺りに決まったとしても中横断道が通るにしてもできれば避けてほしい、距離をね。学校から離してほしいとか、そういった要望はできますから。で例えば野辺山であれば、これは仮の話ですができれば学校の跡地をむしろ中部横断道のインターに使ってもらえば、補償料も出るいろいろな面で有効な訳ですから。そうすれば壊さなくてもいい訳ですから、いろんな面で中部横断道が後でも先でも、そのあとの対応は村がとれます。また、とらなければいけない。まあそれは今後のやりようによってはって話だから。だから皆さんとしてはルートがそこにくるのではないかなと今の北相木、南相木、地域の状況、そして今言った1キロ帯の話。141号線から千曲川沿っていうのもあった。この市場坂のところを通過して、川上の方に抜けていくという話もあったようです。実は今回、みらい会議というのを立ち上げて、この141号から八ヶ岳寄り西側ということで要望は出してありますので当然、学校の上の辺にルートが通るって訳で。それでそのとき、学校がここに決まればなるべくルートを上の方にあげてもらって、例えばそこから下に降りる分でもね。その次には皆さんに色々ご尽力をお願いするかもわからない。141号線どうのこうので建設の場所がね、延びるとかなんとかってというのは多分ないと思う。

津金課長 では、いったん話も途切れましたので今後の内容ということで明日また中公民館で昼と夜、保護者説明会があるということで前回27日もやりまして人数が大分少なかったということもあるそうですけれども、それを踏まえて明日2回やりましてそのあと第7回が11月27日ということで、今の形態のまま進めさせていただくということによってよろしいでしょうか。

大村村長 はい。ぜひお願い。

津金課長 では、そういうことでやりまして第8回目以降で各部会の編成によって決まり

まして最終的には 8 回目以降にまとめたものを村長さんに報告するというご希望をしたいと思います。その他でございますけど、13 日のいではくさんの講演会にあたりまして村長さんの方から……。

大村村長 はい。その前に全国学力調査結果につきましてはそういうことをお願いして、小海高校の存続についても、町村会で特に小海の町長は死活問題だと、まあ高校は統合だよ、小海高校はその最右翼にある。そのような中で何とか存続させたいという南佐久郡下の首長さんあるいは教育委員会に色んな形をお願いしていることだと思う。南牧村も小海高校は近くて利便性もいいし、多くの卒業生がいるので今後もぜひ残してほしい。村としてもそのような要望を出しております。それから今、課長からも話がありましたが 13 日のいではく先生の話ですけれども、2・3 お伝えしたいのですけれども。これは見てもらえば分かりますけど長野県の町村会で毎年 77 市町村が一同に集まって講演を聞く訳です。そんな中で色んな講演をやった中でも中々ネタ切れで、そのような中でいではく先生をお願いしたいということで南牧村出身ということでございましたので私の方に町村会から問合せがあった。私も町村会の要望を早速受けましていではく先生と海尻のみなさんの中でお知り合いあるいは親戚がいるかどうか色んな調べたのですが中々……。同級生はいっぱいいる、前の村長さんとか山本さんとか色々いる訳ですけれども、中々密接につながるような人がいなかったのものでその中で佐久穂町がつい最近小中一貫校を統合しまして 28 年度、27 年度かな。いではく先生に校歌をつくってもらったという経過が。で、佐久穂の町長にそういうことであればぜひ南牧に気を使わないで、いではく先生の事務所話をしてほしいとお願いしたら佐久穂の町長も快く引き受けてくださりまして、いではく先生の講演が実現し私も聞いたわけです。そんな中で先生も南牧村への思いが強いというのと、それから講演も内容があって中々面白いし、非常にいい講演だったので早速帰って総務課に話したところ、その場で段取りをして、ここに書いてあるような状況になった訳です。これでそのあと、どこでやるという話を教育長と相談した中で中学校という話で 13 日に行われるようになった訳であります。その中で別に約束した訳じゃないですけれども先生が書いた本がここにある訳ですけれども、これが多分震災のあとに書いたと思う。まあ、その前の平成 23 年 3 月におきた震災を追って書いてある。そのことをつくった本だと思う。前の村のときにも持ってきた、まあ当然本人は出身ですからそういう話をしたらしいのですけれども、村は対応しなかったようでございます。そんな中で南牧村は、海尻とは書いてないのですけど佐久ということで特に『北国の春』はヒットもしたので、その内容あるいは他の詩の内容、こういうことでこういう歌ができたという本、出来れば村が 13 日に来ていただくときに、30 冊から 40 冊、50 冊ぐらい持ってきてもらって、図書館に置いたり、教育委員会を通じて学校に置いてもらったり、あるいは海尻が出身地でございますので公民館に置いてもらったり、あとは他の分館でほしかったら使っていただいたりしながら、現在いではく先生はうちの隣の富士見町に別荘を持っている。こちらの方で住んでいるようでございます。感じますところ、南牧村は生まれたと

ころなので今まで以上に交流をしたいということが見えますので今後貴重な南牧村の文化人としておつきあいしていこうかと。今現在は日本の著作権の会長さんをやっておって多分年内か来年には交代かな、来年ぐらいはやるのかな。そういう大きな仕事をやっている訳でございます。で、今度は教育委員会の主催で講演をやっていただけるということでこの本を教育長、村で買ってお渡ししますので。それともう一つはね、これは皆さんも知っていると思う。信毎の広告に入っていた、これも何冊か買って教育委員会・図書館に、あるいは村、まあこれはあんま買わなくてもいい。また各学校へでもやってもらえれば。そんなことで私からの話は以上でございます。今後とも皆さんには学校問題、あるいは建設検討委員会でお世話になる訳でございますけれどもひとつよろしく願いいたします。

津金総務課長 はい。ありがとうございます。それでは 1 番から 4 番の議事につきまして以上で終わりましたけれどもその他に何かございますか。

渡辺委員 はい。3 番の小海高校の件ですけれども、小海高校の前身のまあ私もそうですけど、ぜひ（ここにも卒業者が）いるので教育長の方に力になってもらって、そういうご縁でよろしく願いします。

大村村長 はい、わかりました。

◎閉会

津金総務課長 はい。ありがとうございました。その他にございますか。なければこれをもちまして平成 29 年度第 1 回南牧村総合教育会議を閉じたいと思います。大変お疲れ様でした。

大村村長 はい、ありがとうございました。今後もよろしく願いいたします。

開会 午後 4 時 7 分